

政策評価審議会提言（ポイント）

本提言は、政策評価制度導入20年の節目に向け、「行政の評価」の方向性を定めることについてまとめたもの

ポストコロナ新時代の「行政の評価」に転換し、政府の**政策改善機能の強化**を目指す

- 「行政の評価」の**あるべき姿**を提示（**役に立つ・しなやかな・納得できる**評価）
- **改善のアイデア**を提示

提言の背景

社会経済の変化
(人口減少、デジタル技術進展等)

新型コロナの拡大

従来の社会環境を前提とする仕組み
⇒ **仕組みそのものの改善が喫緊の課題**

これまでの「行政の評価」は、
現行の仕組みそのものを問い直すニーズ
に答えきれない

**ポストコロナ新時代の「行政の評価」へ
転換する必要**

行政の評価のあるべき姿

役に立つ評価

ユーザーから見て、
使える評価、知りたい
情報を提供する。

しなやかな評価

評価者が、時の経過や
社会経済の変化に応じて、
適時・的確かつ
弾力的に評価する。

納得できる評価

評価の内容は、優れた
研究やデータにより、
情報が充実し、分かり
やすいものとする。

⇒ あるべき姿を念頭に、
改善のアイデアを提示（P2）

政策評価（各府省）

行政評価局調査（総務省）

① 役に立つ評価

各府省における政策過程の実態を踏まえ、作業の重複を排しつつ、政策改善等に役立つ評価プロセスを実現

ユーザーのニーズを重視した情報収集・提供や、既存の仕組みの評価・改善に不可欠な長期的変化の分析を実施

- ・「評価のための評価」
- ・行政事業レビュー等の政策の改善の取組との重複感

- ・政策担当者や国民が知りたい行政運営の実情を明らかにする役割がおろそかに

② しなやかな評価

政策の特性や改善の目的等に応じて、前例にとらわれず、最適な評価方法を柔軟に選択

評価プロセス等を見直し、各府省・地域の迅速な対応に資する多様で迅速な情報提供を実施

- ・特定のやり方にとらわれ、評価の枠組みの見直しが適宜に行われず、意味の乏しい評価に

- ・「勧告」を導く慎重な考察や分析に時間をかけ、各府省・地域への迅速なフィードバックにつながらない

③ 納得できる評価

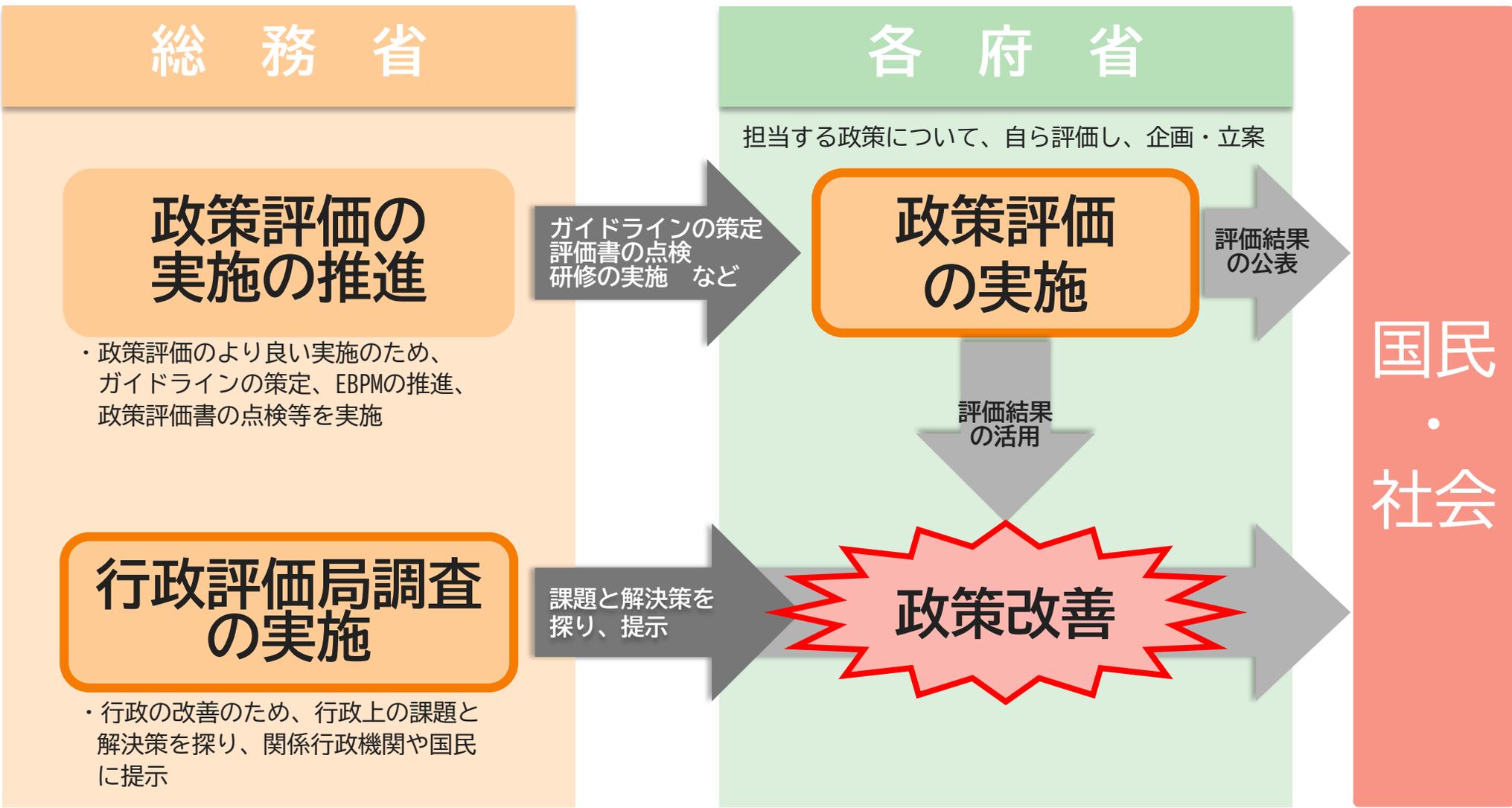
EBPMの更なる推進、データの重視、研究者等との連携を進め、評価の質を向上

- ・EBPMの実践のための技術や、諸外国等の情報に通暁していない等、EBPMの実践方法が確立していない

- ・時代の流れの中での政策環境の変化について、データ等の活用を探る取組は少ない

提言を踏まえ、各府省と連携・協力し、具体化の検討を進め、実現へ

(参考1) 「行政の評価」の概要 (イメージ)



(参考2) 政策評価審議会 委員一覧

会長	岡 素之	住友商事株式会社特別顧問
会長代理・ 部会長	森田 朗	津田塾大学総合政策学部教授
部会長代理	牛尾 陽子	株式会社七十七銀行取締役監査等委員 早稲田大学総合研究機構
委員	岩崎 尚子	電子政府・自治体研究所研究院教授
//	薄井 充裕	新むつ小川原株式会社代表取締役社長
//	田淵 雪子	行政経営コンサルタント
//	前葉 泰幸	津市長
臨時委員	白石 小百合	横浜市立大学国際商学部教授
//	田辺 国昭	国立社会保障・人口問題研究所所長
専門委員	小野 達也	鳥取大学地域学部教授
//	加藤 浩徳	東京大学大学院工学系研究科教授
//	岸本 充生	大阪大学データビリティフロンティア 機構教授
//	堤 盛人	筑波大学システム情報系教授
//	堀田 聰子	慶應義塾大学大学院健康マネジメント 研究科教授